

# 河北省お勧め観光 スポット日本語ガイド

## 河北经典旅游景点 日本語导游词

● 本书编写组



中国旅游出版社

# 河北经典旅游景点日语导游词

## 河北省お勧め観光スポット日本語ガイド

本书编写组

中国旅游出版社

责任编辑：郭海燕  
封面设计：赵芳  
责任印制：闫立中

---

**图书在版编目 (CIP) 数据**

河北经典旅游景点日语导游词/《河北经典旅游景点日语  
导游词》编写组编. —北京：中国旅游出版社，2009.4  
ISBN 978-7-5032-3665-5

I. 河… II. 河… III. ①导游-日语-口语②导游-解  
说词-河北省 IV. H369.9; K928.922

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2009) 第 036702 号

---

**书 名：**河北经典旅游景点日语导游词

---

**作 者：**本书编写组

**出版发行：**中国旅游出版社

(北京建国门内大街甲9号 邮编：100005)

http://www.cttp.net.cn E-mail: cttp@cnta.gov.cn

发行部电话：010-85166507 85166517

**排 版：**北京中文天地文化艺术有限公司

**经 销：**全国各地新华书店

**印 刷：**北京新魏印刷厂

**版 次：**2009年4月第1版 2009年4月第1次印刷

**开 本：**720毫米×970毫米 1/16

**印 张：**14

**印 数：**1-2000册

**字 数：**260千

**定 价：**40.00元

**I S B N** 978-7-5032-3665-5

---

版权所有 翻印必究

如发现质量问题，请直接与发行部联系调换

# 编委会成员名单

主任 王新勇

副主任 纪保平

委员 郭平 舒艳 温学军 金迪 杨瑞杰

主编 刘启亮 赵非

主译 李英田

主审 梅木秀明 李英田 全国兴

# 编写说明

《河北经典旅游景点日语导游词》是河北省旅游局为加大导游队伍建设力度，加速培养外语导游，配合日语导游资格考试而编写的一本日语导游培训教材，也是河北省旅游局奉献给日本游客的一份礼物。

《河北经典旅游景点日语导游词》由河北旅游职业学院刘启亮教授牵头，在中文版《河北导游词精粹》一书的基础上，结合日本游客的特点，简洁精炼地编写而成。本书的出版，既填补了河北省日语导游资格考试日语培训教材的空白，也给来河北旅游的日本游客提供一本具有很强实用性的旅游指南，同时也为各地的旅游从业人员提供了河北旅游的日文资料。本书的出版，也将起到对外宣传河北旅游资源，提高河北各地名胜古迹的知名度，进而促进河北旅游业发展的作用。

《河北经典旅游景点日语导游词》由河北旅游职业学院刘启亮教授、赵非副教授任主编，共同负责对中文内容的编纂。河北旅游职业学院旅游外语系日语教研室主任李英田老师任主译和主审，组织河北旅游职业学院日语教研室教师对导游词进行了翻译。河北外国语学院东语系日本籍教师梅木秀明先生和全国兴主任担任主审。李英田老师对译文进行了全面的审定和修改。参加编译的教师有李英田、张力、赵轶、于丽华、李玲、全国兴、尹磊等。苏建丽老师参加了对全书日语部分的修订工作。

我们衷心希望这本书能够成为广大读者的得力助手，衷心地祝愿河北旅游业有更大的发展。

编者

2008年7月

## 梅木秀明简介



梅木秀明さんは1947年4月日本富山県に生まれ、1960年日本国立金沢大学教育学部を卒業した。卒業してから定年退職するまで36年間も名古屋市立小学校教員を勤めた。2006年から河北外国語職業学院に招聘され、日本人教師を勤めている。

梅木秀明先生，1947年4月生于日本富山县，1960年毕业于日本国立金泽大学教育系。从毕业到退休在名古屋市立小学从教36年。2006年开始，被河北外国语职业学院聘请，担任日语会话教师。

# 目 录

端書き	1	引言	130
避暑山莊	7	避暑山庄	133
普寧寺	14	普宁寺	137
趙州橋	20	赵州桥	141
孟姜女廟	24	孟姜女庙	144
叢台公園	27	丛台公园	146
崇礼スキー	28	崇礼滑雪	147
普陀宗乘	31	普陀宗乘	149
木蘭狩場	37	木兰围场	153
隆興寺	42	隆兴寺	157
北戴河	54	北戴河	165
涿鹿における三祖文化	58	涿鹿三祖文化	168
直隸総督署	62	直隶总督署	171
衡水三絶	69	衡水三绝	176
武強年画博物館	75	武强年画博物馆	180
天下第一関	78	天下第一关	182
清の東陵	82	清东陵	185
満城にある漢時代の墓の案内文	85	满城汉墓	187
崆山白雲洞	91	崆山白云洞	191
香河第一城	95	香河第一城	194
金山嶺長城	104	金山岭长城	200
清の西陵	110	清西陵	204
涉県媧皇宮	116	涉县娲皇宫	208
響堂山石窟	118	响堂山石窟	210
呉橋曲芸の大世界	121	吴桥杂技大世界	212

# 端書き

## 京畿要地——河北

河北省は華北地方に位置しています。北は燕山山脈に寄り、南は黄河を望み、西は太行に接し、東は渤海湾へ延びています。総面積は 18.8 万平方キロメートルで、人口は 6744 万もあり、省都は石家荘にあります。

長い歴史と輝かしい文化をもっている河北省は山や川などの景色が美しく、中国でも観光資源に富んでいる所です。今まで河北省では世界文化遺産と認定された所は三カ所もあります、全国の九分の一を占めます。この中には国家クラスの重要文化財機関は 88 カ所もあり、全国で第三位に数えられています。省クラス以上の重要文化財が 680 カ所もあり、全国第一だと見なされています。このほか国家等級別に属する歴史的文化名城が五つと優秀な観光都市が六つ、全国十大名勝見所が二カ所あります。国家等級別の風景名所が七カ所。国家等級別の森林公園が十一カ所、国家等級別の自然保護区が七カ所もあります。更に国家等級別の 4A 等級別観光名所の数も年を追って増える一方です。

また、2007 年には、秦皇島の山海関、保定市の白洋淀、承德市の避暑山荘および周りのお寺は全国観光地質量等級審査委員会によって、国家の 5A 等級別名所として認定されました。

河北は全国でも唯一の海辺、平野、湖、丘陵、山地、高原区を兼ね備えている地方です。温帯大陸性の季節風気候に属し、複雑で様々な地形に富んでいます。季節の移り変わり及び気候的条件の影響を受けて、河北の自然景色は独特で、とても美しいです。天高く、雲浅し、清風吹けば、牛や羊が草を食う姿が現れる草原風景もあれば、谷間や峰が複雑に入り組んでいて、高く聳えている太行山の風景も真っ白な雪に覆われた燕山も、見渡す限りの広い平野も柔らかい砂浜と水天彷彿の渤海も、蓮の花が満開の湖沼もあります。これはいずれも観光客に人気のある自然回帰の場所、または休暇地になっています。



## 歴史の選り抜き

河北省はわが中華民族の発祥地の一つとして有名です。今から五千年ほど前に逐鹿（たくりく）の野良（のら）という所で、わが先祖と称される黄帝（こうてい）、炎帝（えんてい）、蚩尤（ちゆう）の三帝が激しく戦っていたことがありました。そして涿鹿の隅に城を築いて都を置き、初めて中華文明を打ち立てました。春秋戦国（しゅんしゅうせんこく）時代に河北省は燕国（えんこく）と趙国（ちょうこく）の地に属しますが、何百年かを経て興廢（こうはい）を繰り返す間に数え切れない悲憤慷慨（ひぶんこうがい）の歴史的故事が起りました。そこで、燕趙の地と呼ばれます。千古一帝（せんこいつてい）と称される秦の始皇帝は邯鄲（かんとん）に生まれ、邢台（けいだい）で亡くなりましたが、生前、何回も滄州（そうしゅう）から秦皇島（しんのうとう）にかけての沿岸に沿って、長寿不老（ちようじゅふろう）の薬を探し当てるために訪れたことがあります。生涯の大部分を河北で過ごしました。また、魏（ぎ）、晋（しん）、南北朝（なんぼくちよう）時代に諸侯国（しよくこく）は中原を狙おうとすると、とりあえず、河北を戦場として争っていました。三国時代に劉、関、張の三義兄弟は涿州の桃園（とうえん）で縁を結んでいたので、天下を三分して、やっとな覇業（はぎよう）を成就しました。曹操（そうそう）は鄴下（ぎようか）に駐在し、詩人や賢者などを広く集め、建安文学を以って鄴下に根を下ろしました。北齊（ほくさい）時代には仏教を広めるため、当時の高洋（こうよう）皇帝が邯鄲の響堂山（きようどうさん）に石窟寺（せつくつじ）を建立して、歴大な石窟芸術を完成しました。そして唐、宋時代となってから、河北では禅学（ぜんがく）を崇拜し、全国に知られるようになりました。その頃、玄奘（げんじよう）という名僧も柏林寺（はくりんじ）、諦音寺（ていおんじ）で長年修業した後で天竺（てんちく）へ行って仏教を学び経書（けいしょ）を持ち帰ってきました。後に元、明、清三時代には、皆北京を都としました、河北は北京を囲んだ京畿（けいき）になりました。

古来の燕趙では名士が輩出すると共に悲憤慷慨の人も続々と輩出しました。戦国時代に扁鵲（へんかく）という名医が初めて、望、聞、問、切の四大診査法を主唱しました。荀子（じゆんし）は“人定勝天（じんていしょうてん）”（人間の力は自然に打ち勝つ）を主張しました。燕国の刺客荊軻（けいか）は「風蕭々（ふうしょうしょう）として易水寒（えきすいさむ）し、壮士此行（そうしこのゆ）きとして再（ふたたび）帰らず」で有名です。

西漢（せいかん）時代の哲学者董仲舒（とうちゆうじよ）は「諸家（しよか）を廃棄（はいき）し儒学（じゆがく）だけを尊（とうと）しとする」と主張しました。南朝時代に数学者祖冲之（そちゆうし）は円周率の計算を緻密に正確におこないました。祖逖（そ

てき)は鶏鳴舞(けいんめいま)い上がり、中原を奪い返しました。唐時代の著名な詩人賈島(かとう)は苦吟(くぎん)しました。元時代には偉大な天文学者の郭守敬(かくしゅけい)がいました。劇作家の関漢卿(かんかんけい)がいました。清には不朽の名作「紅樓夢(こうろうむ)」という小説を書いた曹雪芹(そうせつしん)もいました。現代史上には、恐れることなく死に赴いた李大钊(りだいちょう)や国のために命をなげうった董存瑞(とうぞんずい)など、燕趙の子々孫々がこの果てしなく広い河北大地では世々代々に相継いで天地を驚かして神をも咽ばせた叙事詩(じょじし)を作ってきました。従って、長い歴史を持っていたことで、多彩で絢爛たる民俗文化と民芸をも生み出してきました。例えば、定窯(ていよう)、邢窯(けいよう)、瓷州窯(ししゅうよう)及び唐山の陶磁器など典型的な陶器芸術として中国北方を代表しています。

更に、民芸の方では蔚県(いけん)の切り紙細工、武強(ぶきょう)の年画、廊坊(ろうぼう)の景泰藍(チンタイラン)、(七宝焼き)、曲陽(きょくよう)の石彫り、衡水(こうすい)の内画壺、易水の硯などが国の内外でも名声を馳せました。演芸では、河北拍子木(びょうしぎ)、保定(ほてい)の老調拍子木、唐山の影絵(かげえ)芝居(影劇)、井陘(せいけい)の花飾りのどれもが独特なあでやかさに世に知られています。それに滄州の武術、呉橋(ごきょう)の曲芸、永年(えいねん)の太極拳および保定においての健康長寿の方法なども、いずれも欠くことのできない観光資源になったのです。

## 河北の観光コース

河北省は観光サービス産業を発展させ、国の内外から多くの観光客を誘致するために、引き続き観光資源を生み出して、八つの特色のある観光コースを作りました。

### 観光コースその一

冀東(きとう)海辺への休暇コースです。北京から京滬高速道路に沿って東へ遵化市(そんかし)、玉田県(ぎょくでんけん)、唐山市(とうざん)、盧龍県(ろりゅうけん)、撫寧県(ふねいけん)を経て、秦皇島(しんのうとう)まで280キロの道のりです。

遵化市にある清の東陵は清王朝の二大帝王の墓の一つです。規模が膨大で、巧みに建てられたこの墓の群れは勢いが堂々としています。ここには康熙、乾隆(けんりゅう)及び西太后(せいたいこう)を含む皇帝が5人と妃(きさき)が15人と官吏たちが136人葬られています。

唐山は震災の廢墟から改めて建てられた都市です。1976年に起こった大震災の遺跡がその被害の悲惨さを観光客の心に訴えかけています。また唐山は国内外でも有名な「北

方における陶磁器の都」だと知られていますから、年に一度ここで陶磁器博覧会が開かれて、国内外からのたくさんの観光客を引きつけています。

秦皇島は世界でもよく知られている浜辺の観光都市です。ですから、「夏の都」と褒められています。ここには海へと延びる万里長城の山海関老龍頭（さんかいかんろうりゅうとう）、北戴河（ほくだいが）、南戴河（なんだいが）、昌黎（しょうり）における金色の沙浜などがあります。

### 観光コースその二

承徳の皇室風景観光コースです。北京を出て、京承観光道路を走り、北東へ行って、懐柔（かいじゅう）、密雲（みつうん）、滦平県（らんぺいけん）を經由して承徳に至ります。道のりは230キロメートルです。このコースはかつて清朝の皇帝たちがいつも関外への見回りをしたコースに当たります。皆様の目に見えるのは承徳市の避暑山荘、外八廟（がいはちびょう）及び围場県（いじょうけん）の北にある森林草原です。

承徳市における避暑山荘は今世界でも一番大きくて古典的な皇室庭園です。それは諸建築の長所を広く取り入れて、江南（こうなん）ではうるわしく北国ではたくましく、それぞれに特色ある美しさをすべて兼ね備えました。天下の風景を一園に集めるといふ称賛もあったのです。山荘の回りにある外八廟は全国でも一番大きな寺院群です。建築群全体が金色できらきら輝いて、雄大で壯観です。

星座のように山荘の回りを囲んでいます、建築様式が様ざまで、モンゴル族、チベット族、ウィグル族、漢民族、満州民族の特徴が巧みに解け合っています。これは中国古代建築芸術の粋を集めた中国諸民族文化芸術の結晶です。わが中華民族は団結した統一的な多民族国家だということを証明する歴史的な証拠であるともいえます。

围場県にある森林草原は清の皇帝によって兵隊を訓練して、狩猟する場所です。何百年もの間、政治や軍事などの行事が行われ、数多くの遺跡や文化財を残しました。独特な山や川、見渡す限りの広い草原、豊富な野生動物、植物資源などもあり、自然に回帰し、休暇を過ごすのに絶好の場所となりました。

### 観光コースその三

京北（けいほく）草原観光コースです。北京を発ち、高等級別道路に沿って、北のほうへ走って行けば懐柔区を経て、豊寧県（ほうねいけん）に至る道のりは190キロメートルです。豊寧県にある京北第一草原は北京に一番近い天然の大草原です。ここでは青空、白雲、芝生、清水もあり草原は広々としています。野鳥の鳴き声を絶えず耳にします。「京

北の明るい真珠だ」と称賛されています。

#### 観光コースその四

塞北（さいほく）への観光路線は北京を出発して京張高速道路に沿い、北の方へ行けば昌平区（しょうへいく）と延慶（えんけいく）及び宣化（せんか）を経由して張家口（ちようかこう）に至る道のりは200キロメートルです。

万里の長城、草原、始祖文化など特色のある場所が多いので、張家口へ行く甲斐があるというものです。特に言及しなければならないのは涿鹿における皇帝城が中国では最も古い都と認められているということです。歴史上に「千年文明涿鹿開く」という伝説もありました。今でも皇帝城、炎帝城、蚩尤部落など数多くの遺跡が残されていますが、温泉浴、探険、激流漂流、農業観光並びに山地スキーなどもあって、張家口は京北西方面での理想的な行楽先と見なされるようになりました。

#### 観光コースその五

北京郊外への観光コースです。北京からわずか90キロメートルぐらいの涞水県（らいすいけん）にある野三坡（やさんば）と涞源県にある白石山（はくせきさん）は国の内外に知られています。太行での絶景と呼ばれるほどのところですよ。百里峽（ひゃくりきよう）、仏洞塔（ぶつとうとう）、竜門峽（りゅうもんきよう）、金華山（きんかざん）、百草畔（ひゃくそうはん）などのような景色はそれぞれが味わい深く、興に富んでいます。長年京津の観光客に愛される場所になりました。それに京津住民の避暑地にもなっています。

#### 観光コースその六

燕趙文化観光コースです。北京から京広鉄道線路沿いに京深高速道路を南の方へ行くと、順に保定（ほてい）、石家荘（せつかそう）、邢台（けいだい）、邯鄲（かんとん）の四つの中心都市があります。その道のりは450キロメートルもあります。この四つの都市は西に太行山（たいこうさん）があり、東は華北平野と繋がって文化が深く根を下ろしているところです。文化財や遺跡なども数え切れないほど残されています。涿州では有名な『三国演義』という小説がここを舞台に書き始められ、清朝帝王のお墓、清西陵（しんせいりよう）もここにあり、満城県（まんじょうけん）の満城漢墓の中から金縷玉衣（きんろぎよくい）という国宝が掘り出されました。保定での元直隸総督署（げんちよくれいそうとくしよ）は全国でも唯一の清時代の省等級別に属するもので、とても人気のある場所です。また白洋淀（はくようてん）は華北地方一の大きな淡水湖です。正定（せいてい）にある隆興寺（りゅうこうじ）は“京南一の名刹”と称されました。趙県にある趙州橋（ちようしゅうきよう）は世界でも橋

梁建築の始祖だと考えられています。邯鄲という古い都は戦国時代に趙国の都として熟語物語をもって有名になりました。今も響堂山（きょうどうさん）の石窟寺（せつくつじ）、娲皇宮（かこうきゅう）、武靈叢台（ぶれいそうだい）、黄粱夢（こうりょうむ）及び呂仙祠（りよせんし）などの遺跡が残っています。しかも、靈寿（れいじゅ）の五岳寨（ごがくさい）、平山（へいさん）での天桂山（てんきさん）、贊皇（さんこう）にある嶂石岩（しょうがんさん）、井陘（せいけい）にある蒼岩山（そうがんさん）、臨城（りんじょう）にある崆山白雲洞（くうざんはくうんどう）、涉県（しょうけん）にある娲皇宮（かこうきゅう）などの絶景は優美で、自然のありのままの景色でいつも観光客の目を引き付けています。

### 観光コースその七

冀東南への民俗的な情緒を帯びた観光コースです。北京から京津塘（けいしんとう）高速道路或いは京滬（けいこ）高速道路を南東へ香河県（こうがけん）、廊坊市（ろうぼうし）、天津（テンシン）、滄州市呉橋県（そうしゅうしごきょうけん）を順に経て衡水（こうすい）に着き、道のりは410キロメートルあります。香河県第一城は明、清時代に北京風な建築様式を真似て建てられました。中華古今の文化の異彩を集めたということで今も全国で一番規模の大きい工事であると認められています。また廊坊も衡水も省内では観光商品を多く産出する土地だと見なされています。ここで作られた蒙古鏤め、七宝焼き及び内画かぎタバコ瓶などは種類が多くて、手工芸も完璧なものです。滄州（そうしゅう）の呉橋（ごきょう）は言うまでもなく曲芸で有名な町です。噂では上は九十九歳のお年寄りから、下はよちよち歩きを始めたばかりの子供まで、呉橋では曲芸の腕前なら誰にも負けないと伝えられているそうです。

### 観光コースその八

万里の長城の観光コースです。万里の長城は中国の観光シンボルであるのはもちろんですが、さらに河北観光においても看板と見なされています。全世界にも知られている長城は河北省全域を2000キロメートル以上も走っていて、その建築様式も最も代表的で、完璧に保存されているものです。また長さも大変長いです。たとえば、河北省にある長城の源老龍頭（ろうりゅうとう）、天下第一関と称される山海関（さんかいかん）、真っ逆様に崖にぶらさがっている角山長城（かくさんちょうじょう）、谷間に跨っている九門口長城（きゅうもんこう）、ダムに潜っている潘家口長城（はんかこう）、曲がりくねった金山嶺長城（きんざんれい）、長城の関口と称された大境門（だいきょうもん）、伝説によって建てられた孟姜女廟（もうしょうじょびょう）などいづれも河北にあります。

訳者 李英田

# 避暑山莊

## 避暑山莊

避暑山莊（ひしょさんそう）は承徳市市内の北部に位置し、中国にある規模の大きな皇室庭園と褒められています。敷地面積は564ヘクタールで、頤和園の二倍近くの広さで、北海公園の八倍の広さがあります。十キロもある城壁はまるで万里の長城のように、高い山と平原の上でうねうねと延びています。避暑山莊は山の地形を借り、合理的に配置し、中国塞外連山の雄大と江南水郷地帯の秀麗を持ち、中華民族数千年の造園芸術の素晴らしさを示しています。庭園の中の120箇所あまりの建築は山と水の姿を借り、重なり合って趣があり、自然に形成したみたいです。まるで山と水の絵巻物のようで、職人の才能と知恵が十分に現れました。避暑山莊で一番有名な七十二景の中の、四つの文字で名付けられているのは康熙帝によって書かれたもので、三つの文字は乾隆帝によって書かれたものです。これらの名前は名言から引用されたものもあるし、警句から引用されたものもあり、清新で、素朴で毎箇所の詩情を明示し、山莊に洗練された文学的な雰囲気添えています。

## 承徳——帝王の後花園

清の始め頃、承徳市はただ「熱河上營（ねつがじょうえい）」と言われる小さい町でしたが、だんだん清の支配者の後花園、貴族が群れて集まる都市となり、清の第二の政治の中心地となりました。雍正帝が位にある期間（1723年—1735年）、「先祖の恩恵を承ける」の意味を受け取り、承徳とあらためて名付けられました。

多民族の国家を統一し、辺境を安穏させるため、康熙帝はたびたび北方を視察しました。そこで、都外れの350キロメートルモンゴル族牧畜地で「木欄圍場（もくらんいじょう）」を設置し、大規模な狩猟と軍事訓練を始めました。歴史には「秋彌大典（しゅうびだいてん）」と呼ばれました。毎年の狩猟活動は、途中での食住や休憩や物資の輸送などの問題を解決しなければなりません。同時に、休憩したり、避暑したり、政務

を取ったりするところも必要になります。そのため、途中で相次いで二十箇所あまりの行宮を建てました。康熙帝は何回も視察したすえ、承德を理想的な庭園として開いたと決めました。承德は景色もいいし、気候もいいし、要地にあり、真夏になって平均温度は24℃しかありません、北京に近いわけです。すると、康熙帝は灤河（らんが）の畔で山荘を建てることを決め、また、直筆で「避暑山荘」という名前を名付けました。毎回、皇帝は北方を巡視したり、あるいは木欄囲場へ狩猟に来たりする時、いつも万里の長城北側で3ヶ月乃至5ヶ月ぐらい滞在しました。

### 避暑山荘の修築

熱河行宮は康熙四十二年（1703年）に建て始め、康熙五十年（1711年）までほぼ規模を備えました。熱河行宮はほかの数多くの行宮の中核で、その役割もほかのものとは比べ物にならないほど重要です。ゆえに、康熙帝は「避暑山荘」との名を書き付けました。それから、避暑山荘もその機運に応じて生まれました。乾隆帝が位についた後で、祖父の康熙帝の「同心治理再精求」（同心整備、再完備究極）の精神によって、山荘を続けて広めさせ、乾隆五十七年（1792年）まで工事はやっと完成し、89年の歳月をかけました。避暑山荘は紫禁城に次ぐ第二の政治の中心地でした。中国の四大庭園の一つとして、世界に現存する最も完璧な皇室庭園です。そのほか、避暑山荘も「康乾盛世」の証拠だと言われます。1994年、避暑山荘並びに周りの廟宇は世界文化財として認められました。

### 避暑山荘の風景と観光スポット

避暑山荘は働きにより、宮殿区と庭園區二つの区域に分けられています。宮殿区は山荘の南の方にあり、正宮、松鶴斎（しょうかくさい）、万壑松風（ばんかくしょうふう）と東宮（とうきゅう）四組の建築からなっています。ここは清の皇帝と妃たちの日常生活をし、政務を取り、祝典などを行い、宴会を楽しむ場所です。惜しいことに東宮は焼き払われてしまいました。

青煉瓦と灰色瓦で構成する宮殿は上品で、淡泊で、封建的な規制の整然で厳かなまどりをきちんと守ります。庭園區は湖、平原区と山地に分けられています。地形が複雑で、北西部はうねる山並が重なっていて、森が盛んに茂っています。南東部の湖は人々に江南情緒の美しい景色を思わず思い出させました。山と湖の間は広々とした平原です。まるで北国の広漠として果てしない草原風景のようです。庭園全体の配置はちょうど清の領土の縮図のようです。

避暑山莊の宮殿区は康熙五十二年（1713年）に建て始められ、乾隆十九年（1754年）にはあらためて修築され、敷地面積は一万平方メートルあります。中国の伝統的な陰陽学説によれば、古代の中国人は偶数が陰に属し、奇数が陽にぞくすると考えました。陰は女、暗、消極的とされるもので、陽は男、明、積極的とされるものです。数字「九」は最大の奇数で、だから、大部分の皇帝が使用される宮殿は奥行きが九層の庭からなっています。「九」は皇帝の数字で、古代の皇帝は「身居九重」ということです。正宮の中軸線に位置している建築は澹泊敬誠殿（たんぱくけいせいでん）、四知書屋（しちしょおく）、煙波致爽殿（えんぱちそうでん）と煙雨樓（えんうろう）です。正宮は表御座所と裏寢殿からなっています。皇帝が居住し、政務を取り、祝い儀式と典礼を行う場所です。ほかの建築は中軸線を基準に対称的に左右に配置され、これによって、皇室権力の厳かさをみせつけます。

- ・ 麗正門は避暑山莊の正門で、正宮の第一重の門です。東西の間口は3軒で、2階建てです。下部には三つのアーチ型の通路が開けられ、上部には姫垣と望楼があります。真ん中の通路の上方には石製の額がひとつあり、上は乾隆帝が満州文字、漢字、モンゴル文字、チベット文字、ウイグル文字五種類の文字で書かれた「麗正門」です。「麗」は「附着」の意味で、「麗正」は「方向と位置がきちんとすれば、光明がもたらされる」という意味です。麗正門は統一多民族の国家が永遠に繁栄し、発展し続けることを象徴しています。

避暑山莊は大宮門と二宮門を含めます。康熙帝の直筆で書かれた「避暑山莊」の金メッキ銅製の額が二宮門に高くかかっているから、「避暑山莊門」と呼ばれます。

宮殿区は規模大きい皇室庭園の南部にあり、敷地面積は10万平方メートルです。「四合院」式の建築様式を取り入れ、素朴で上品です。正宮の本殿は澹泊敬誠殿で、役割が北京紫禁城の太和殿に当たります。清の皇帝が重大な式典を行い、百官が朝拝し、少数民族の首領と外国の使節たちを招待し、また、政務を取る場所です。

澹泊敬誠殿はもともと康熙五十年（1711年）に建てられ、乾隆帝の時、楠で改築したため、俗に「楠木殿」と言われます。楠、青煉瓦と灰色瓦、白木の柱から構成し、淡雅荘重で、素朴よろしきを得ています。このような建築スタイルは故宮の黄色瓦と赤色壁、蒔絵と色絵の華麗で堂々としている建築スタイルとはくっきり対照をなしています。乾隆帝は「漢、唐以来、帝王の欲望を満たすために、首都以外のところで大規模な土木工事をしてきた。それは資源の無駄遣いを招いた。また、ひどい場合には国家を滅ぼすことにもなった。我々は過去の過ちを繰り返してはならん。」と言ったことがあります。歴史から教訓を食い止めるので、乾隆帝に建てられた宮殿のほとんどが素朴なのです。この大



殿は皇帝の思想の具代的な現れなのです。

澹泊敬誠殿は72000両の白銀を費やし、19万人の労役を使ったそうです。殿中は大理石で地面を敷いたのです。柱、仕切り板、天井板はすべて楠で作られ、丈夫で、色合いが素朴で昔ながらの風格があり、さわやかな香りがしています。天井、仕切り板には桃、コウモリ、唐草など精美な模様が彫刻されています。「五福捧寿」、「万福万寿」の図案をしています。北の方の本棚には『古今図書集成（こきんとしよしゅうせい）』一万冊が収められています。皇帝の宝座の両側に鶴が飾られています。後ろは紫檀の屏風で、いきいきして、姿が異なる163人の『耕織図』が彫刻されています。これは皇帝が民衆を温かく見守ることを示しました。澹泊敬誠殿の門楣には金木黒字の額が三枚掛かっていて、内容が乾隆帝が引っ込んだ後書かれた思いを述べる詩作で、詩の中で古稀天子の喜怒哀楽が滲み出て、当時皇帝の心持ちを映したのです。

四知書屋は側近の大臣を接見したり、休憩したりしたところです。ここも重要な客を面会するところです。盛大な式典を行う前に、皇帝はいつもここで着替えをしました。たとえば、皇帝はここで班禅等喇嘛やイギリスの使節喬治・馬嘎尔尼（ジョージ・マガルニー）を面会したことがあります。

煙波致爽殿は清の皇帝の寝室です。ここも嘉慶帝、咸豊帝（かんぽうてい）が病没したところです。「四囲秀嶺（しいしゅうれい）、十里澄湖（じゅうりちようこ）、致有爽氣（ちゆうそうぎ）」という言葉があるから、康熙帝がこの宮殿を「煙波致爽」と名づけました。1860年、英仏連合軍が北京に侵入し、咸豊帝は母后と妃たちを連れて、ここへ逃げて来ました。

咸豊帝はかつてここで奏文（そうぶん）を批閱（ひえつ）しました。また、弟の恭親王（きょうしんのう）は英仏両国と『北京条約』を調印したことを承認しました。ロシアと『暖暉（あいぎ）条約』を結びました。これらの条約によって清は主権を失い、国家を辱められたほかに、領土も大量に割譲し、賠償金もたくさん支払いました。乾隆帝は上品な格律詩と優美な書道作品を持って、承德には数多くの額、碑文と優美な石刻作品を渡しましたが、彼の子孫は同じような優美な文字で香港を譲る『北京条約』を調印したことなんか絶対思いつかなかったのです。

西暖閣（せいだんかく）は咸豊帝の妃、後の有名な「慈禧太后（じきたいこう）」（西太后）の住まいです。部屋の中には西太後の日用品がいくらか展示されています。「慈禧」は咸豊帝から賜った名前です。「聖母」という意味です。1861年、咸豊帝が死んだ後、慈禧は政権を乗っ取り、晩清時代には中国を支配し始め、48年にわたりました。

山荘の庭園区の面積は北京頤和園の六倍にあたり、湖、平原区と山地にわけられていま